



CSRレポート2021



ISO9001 ISO14001
Quality & Environmental
Management System



レッキス工業株式会社

＜経営ビジョン＞ 私たちが目指す姿

1. 私たちは、独自の技術・サービスを創造し、業界をリードする会社を目指します。
2. 私たちは、最高の製品・サービスの提供を通じて、信頼される会社を目指します。
3. 私たちは、地域社会に貢献し、社会から必要とされる会社を目指します。
4. 私たちは、共に考え、助け合える、働きがいのある会社を目指します。

トップコメント



代表取締役社長
宮川 一彦

＜経営品質向上活動を軸に改革活動を継続＞

当社は、組織的能力を高める活動として、2008年度より経営品質向上活動に取り組んでいます。この活動には基本理念があり、「顧客本位」「独自能力」「社員重視」「社会との調和」という4つの考え方は、当社の社是である「三利の向上」（お客様を利する、社員を利する、社会を利する）に相通ずるものがあり、当社の改革活動の中核として、位置付けております。結果として、2014年度には、過分にも関西経営品質賞優秀賞を受賞することができました、
現在でも、社長、役員、部門長等、約25名からなるプロジェクトチームが全社の改革活動をリードしており、経営ビジョンの策定、ビジョン実現のための戦略の立案、課題討議等を行い、活動をリードしています。

＜業務能力の向上と組織能力の向上をバランスさせる＞

経営ビジョンとして掲げた4つのありたい姿は、2017年に「将来会社がどうあって欲しいか？」という従業員アンケートを実施し、経営品質の基本理念である「顧客本位」「独自能力」「社会との調和」「社員重視」の考え方と、当社の社是である「三利の向上」をもとに整理し、2018年より、私たちが目指す姿「経営ビジョン」として定めたものです。

業務能力の向上は、企業としてお客様から選び続けて頂くために不可欠ですが、そうした活動を継続していくためには、他方で、しっかりとした土台づくりが必要です。当社の社是「三利の向上」は、お客様、社員、社会を利することが事業継続にとって不可欠なものであるという、創業者の教えを明文化したもので、経営品質が求めているものと基本的に同じです。道半ばとは存じますが、これらのビジョンを永遠に追いつけるものとして掲げ、改革活動を継続していきたいと考えております。

＜DX推進は、日本経済再生のための我々事業人の義務＞

DX（デジタルトランスフォーメーション）という言葉がいたるところで使われ始めていますが、その強力な推進は、日本経済再生のために不可欠な活動だと謳われています。当社は、デジタル化による業務の生産性向上が極めて重要との認識で、1989年にまず基幹システム構築を目的とした情報システム部を立ち上げました。同年にランドデザインをまとめ、1991年、92年と生産管理系、販売管理系の基幹システムを構築しました。以降、現在でも日々進化するデジタル技術を使って、各部門の業務生産性を向上させる活動に取り組んでいます。

当社は、DX推進の目的は、経営のやり方をデジタル前提で抜本的に見直すこと、デジタルを最大限に使いこなせる企業へ生まれ変わらせること、と捉えています。これからも、デジタル技術を使って、「社員」を利すること、「お客様」を利すること、「社会」を利することに、取り組んで参りたいと考えております

独自の技術で豊かな未来を創造する商品

レックスのモノづくりは、「お客様の喜んで頂く顔」をコンセプトに、「独自性・感動・創造性」の3つを開発ポリシーに「現場作業に見合った最適な商品」の提供を志し、作業者と作業現場に密着した商品開発を行うため、お客様の声に耳を傾け、お客様と共に歩んでいきたいと考えています。出来上がった商品は、様々な場所・場面で使用していただき、役立っていることを嬉しく思っています。



◆2020 年度建築設備技術遺産に認定

1959 年に初めて国産パイプマシン（自動ネジ切機）を開発、以来、新しい技術で様々な配管工具を開発してきたことが認められ、「切削ねじ」「転造ねじ」の開発が一連の関連技術遺産として一体で評価されました。



建築設備技術遺産

認定第38号 自動切り上げダイヘッド付き切削ねじ切り機および 転造ねじ加工機



「建築設備技術遺産」とは、建築設備における空調・衛生・電気・搬送の4領域に関する技術と技術者の歴史的な足跡を示す具体的な事物・資料であって、建築設備技術の進歩・発展において重要な成果を示したものや、生活、経済、社会、地球環境、技術教育に貢献した、または当時を反映する技術遺産である建築設備技術のいずれかに合致するものをいいます。今回の認定は昭和4年日本で初めてオスタ型パイプねじ切り器の国産化に成功したことから始まりました。その後自動切り上げダイヘッド付きのパイプマシンが登場したことにより、作業者の経験と勘に頼っていたねじ切り作業は未経験者であっても熟練者と同じ品質でねじ加工ができるようになりました。更にこの切削ねじ切り機に続いてより良い丈夫な配管ねじを実現するために、塑性加工でねじ加工を行えることができる転造ねじ加工機の量産化にも成功しました。ねじ部の肉厚を確保できるため溶接並みの機械的接続強度を実現し耐環境性、耐腐食、配管の長寿命化にすぐれたねじ接合の可能性を切り開きました。

独自の技術で豊かな未来を創造する商品

「配管する」ことがこれまでのレックスの事業といえましたが、管内の検査をはじめ、状況に応じて清掃や洗浄・浄化をすることで、赤錆やスケール・ぬめりなどの「配管トラブルの解消」が可能になりました。配管寿命の延長だけでなく、コストや環境保護にも配慮した保全システムでより安全で安心できる「水のある生活」をサポートしています。



◆GラインスコープV2830Mk II



管内カメラGラインスコープは配管内部に小型カメラを通すことで配管の詰まりや腐食の状況を直接確認することができる当社の代表的な配管診断ツールです。

今回開発したV2830Mk IIはシリーズ最上位機種で最新技術と当社のノウハウを凝縮したモデルです。

クリアな画像の7インチ大型画面、操作しやすいタッチパネル、モニターの回転機能などで作業性を向上させました。またワイヤレス通信機能の追加により画像データを直接スマートフォンやタブレットに保存することができ、会社にデータを送信することで報告書の完成を早めることも可能となります。また業界初となるGPS機能の追加により作業後の不具合箇所の位置特定も容易になりました。

◆建築設備用PE管EFコントローラBEF100

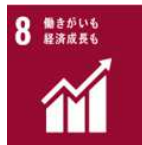


耐震性、耐久性に優れ施工性の良いポリエチレン管は従来ガス、水道などの屋外埋設管として広く採用されて来ましたが、近年ビルの建築設備配管でも採用が進んでいます。管の接合には継手に通電し樹脂を融着するEFコントローラが必要ですが、従来の屋外埋設配管とビルの屋内配管では使用環境が大きく異なり、ビル配管においてはより軽く可搬性に優れ、天井など高所での作業にも適したコントローラが必要となります。

今回それらニーズに対応した建築設備用コントローラBEF100を開発しました。高強度樹脂を本体に採用することで大幅な軽量化を実現し、専用キャリングケースで可搬性もたいへん良くなりました。また高所での配管作業に対応できる9mの長尺ケーブルを標準装備しました。

業務の効率化（DX 推進）

早くから、デジタル化による業務の効率化に取り組んできたおかげで、新型コロナ禍でのリモート対応や働き方改革への対応にも、短期間で着手、完了ができました。また、お客様にホームページに登録いただくことで、定期的な情報発信や特別なサービス提供ができる「レックス倶楽部」の仕組みの導入、さらにInstagramによる、情報提供も始めており、お客様との新しいコミュニケーションの方法を模索しております。



◆お客様とのコミュニケーション手段の充実

当社ホームページにある「レックス倶楽部」にご登録いただくと、取扱説明書、安全データシート（SDS）、ソフトウェアのダウンロード、所定フォームでのお問い合わせ、カタログ冊子のご請求、お客様カードのご登録など、これまでになかった特別なサービスが得られる特典があります。これまで、多くのお客様にご愛顧いただき、創業以来、事業を続けてこられたという歴史がありますが、これまでお客様と効率的、効果的に情報共有できる仕組みがありませんでした。デジタル技術の導入はそうした状況を一変させており、当社のお客様とのコミュニケーションの手段は日々進化しています。



◆マシニングセンター（MC）による部品加工の自動化

当社では、積極的にマシニングセンター（MC）を導入し、部品加工の自動化を進めています。沢山の品種があるため、これまで専用の加工機による作業が多かったのですが、MCの導入により、作業の効率化が進んでいます。



新しい価値提供(DX 推進)

当社は、大手事業者様からの要請を受け、それまでは「経験と勘」に頼りがちだった配管検査を、デジタル技術を使う事で誰でも同品質の検査を可能とする「みるみるくん」の開発にチャレンジ致しました。ユーザー様の使い勝手を大きく改善するために、膨大なソフト開発が伴いましたが、そのことにより社内に更なるデジタル技術の蓄積ができ、結果として、お客様のお困りごとを丁寧に解決していく、新しい価値提供ができるようになりました。



◆デジタル式 圧力・満水試験記録器 むるみるくんⅢ (iOS®対応)

「みるみるくん」は業界初の商品で、配管検査（漏れ確認試験）である水圧試験・気密試験・満水試験などに使用するデジタル計測機器です。

従来は、目視で確認・判定し、試験の記録（エビデンス）として写真を撮り、写真を貼り付け報告書を作成するアナログ的な試験方法でした。

「みるみるくん」により自動計測・自動判定し、iPhone®・iPad®専用アプリで試験データを収集、グラフ化したデータを確認、転送し、パソコンで報告書を自動作成するスマートテストシステムです。

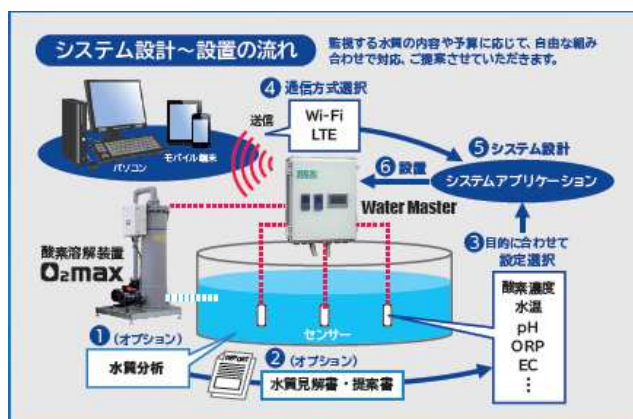
配管検査の省人化・効率化による生産性向上、そして施工品質向上に貢献します。



◆ 養殖池水質管理支援システム Water Master

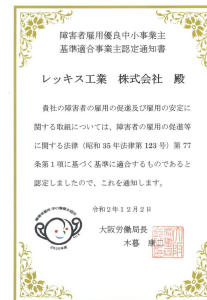
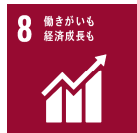
Water Master は養殖池の水質異常を事前に防ぐために開発された画期的なシステムです。

このシステムでは、水質ごとの変動推移をグラフ化し、池の状態を可視化します。そこに水質の変動値を設定することで、最適な養殖環境の実現をサポートします。設定した許容値を逸脱した場合、タブレットやスマートフォンを通じて自動で、作業者に通知され、適切な水質対策を行うことで、水質の早期改善を促します。15池までの集中監視が可能で、事務所でPCディスプレイに表示すれば、毎日水質を測定していく必要がなくなり、養殖業者様の働き方改革にも貢献できます。



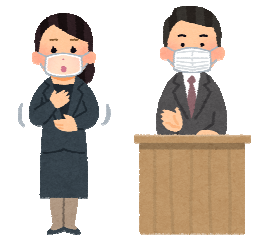
障がい者雇用への取り組み

創業以来、障がい者雇用には積極的に取り組み、障がい者の方が安心して働ける会社づくりを進めています。2020年6月現在では、障がい者雇用率は12.47%と高い雇用率を維持しています。具体的な取り組みとして、社内報告会では聴覚障がい者のために外部に手話通訳を依頼したり、入社員へ社会人として必要な知識の勉強会などを実施しています。これらの成果、実績が認められ2020年12月に大阪労働局より「障がい者雇用優良中小事業主」（通称：もにす）認定を受けることができ、今年度も継続しています。



◆聴覚障がい者への取り組み

四半期毎に全社報告会を実施しています。そのほかストレスチェックのフォローとして社内研修会、健康をテーマにした健康教室など全社レベルの報告会を数多く行っています。その際には必ず手話通訳者を外部に依頼し、報告・研修内容の理解に力をいれています。鳥取工場の聴覚障がい者にも伝わるように手話通訳はインターネット中継もしています。



◆地域で働く障がい者への取り組み

毎年5月の第二日曜日に「大阪府布施障害者雇用対策協議会」を代表して、周辺企業で働く障がい者の支援として「東大阪市民ふれあい祭り」に参加しています。今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、出展数を縮小しての開催となり、参加することは出来ませんでした。例年は会員企業様から頂くバザー商品の販売で大いに盛り上がっています。また社員もバザー品を店の前に立って紹介したり、スーパーボールすくいもしたりで活気と楽しさに満ちたお祭りです。



バザー店での収益金は全て同対策協議会に寄付しています。

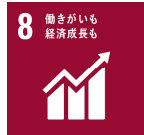
この寄付金は会員企業で働く障がい者の雇用定着を目的としたレクリエーションの一部に使われています。

例年、観劇「吉本新喜劇」に招待しており、観劇後の集合写真でも伺えますが、皆さん楽しんで頂いております。



支援学校との交流

季節毎にたまがわ高等支援学校の生徒さんたちに花壇いっぱいの花を植えていただいています。花は近隣住民の方々にも鑑賞していただき、当社の風物詩になってきました。夏の取れたての野菜の販売も続いています。職場への受入れは春先に工場見学、6月からは随時各支援学校と調整をし、職場実習の受入れを行っています。そして生徒さんの頑張る姿を何時も応援しています。



◆工場見学や職場実習の受入れ

支援学校からの工場見学は新学期からの職場実習先を選ぶなどの理由で3月から始まります。昨年は春先の受け入れについては、コロナの影響で延期となり、6月にたまがわ支援学校より7名、3月にだいせん聴覚高等支援学校より2名来られました。

たまがわ高等支援学校からは入学したばかりの一年生が社会勉強を兼ねて来られます。見学後の質疑応答では初めてのことばかりなので多くの質問をいただきます。この工場見学をきっかけに今年も、6月に職場実習に来られる予定です。



◆野菜の即売会

たまがわ高等支援学校の生徒さんが毎年8月にその日の朝に収穫したばかりの野菜を持ってきてくれます。この野菜は当社の昼休みの時間帯に販売され、社員が我先にと集まって飛ぶように売れていきます。朝の収穫から販売準備し、販売中も手を休めることなく、一日中頑張っている生徒さんには頭が下がる想いです。



◆季節を彩る花を花壇に♪

春にはスミレや菜の花、秋にはコスモスと季節を彩る花々を会社前の花壇に、たまがわ高等支援学校の生徒さんに植えてもらっています。植えられた花は成長が早く、近隣住民の方々にも立ち止まり鑑賞していただいています。

12月には葉牡丹を植えていただき、四季折々の植物を眺めることができ心がとても和みます。先生方や生徒さんに感謝しております。



未来ある子どもたちへの支援

これからのこどもたちのために何ができるかを考え、児童施設への定期的な寄付や、会社行事への招待などを中心に支援を続けています。大阪市内にある児童団体には寄付金を毎月送金し、東大阪工場の近隣児童施設の子どもを年二回の会社行事に招待をしています。またペットボトルのキャップを全社で集め・支援団体に送り、世界中の貧困の渦にいたる子どもたちへ繋がることを願っています。



◆児童施設への寄付

定期的に児童施設への寄付を続けています。9月に奈良の児童発達支援施設「すくすく」に支援金を寄付しています。重度な障害をもって生まれてきた子どもたちですが、先生と居る施設内では精いっぱい明るく、楽しく過ごされています。他の施設の子どもたちともコミュニケーションを図る行事などに参加もされています。



年末は市内の児童施設「生駒学園」へお餅の寄付を続けています。同時に近隣の老人会へもお餅を寄付しています。年明けには同施設の子どもたちより毎年お礼の貼り絵が届きます。お餅を焼いて膨らんだ可愛い絵などが私たちを楽しませてくれています。



「貧困や機会差別をなくし、虐待に苦しむ子どもをゼロにする」を理念に活動されている「みらいこども財団」へ毎月寄付金の送金を続けています。同財団は大阪と東京を中心に児童養護施設への訪問活動を続けられています。



◆近隣児童施設の子どもたちとのふれあい

工場近くの児童施設「若江学院」の子どもたちを会社行事に招待していましたが、今年もコロナ禍の影響で会社行事に招待できませんでした。せめてもの楽しみにしてもらえたらと、クリスマスプレゼントとして小さなお菓子のセットを用意させて頂きました。

後日、子どもたちから「おいしかったよ！」

「ありがとうございます。」とのお手紙を頂きました。早くコロナが収束することを願い、また会える日を楽しみに待っています。



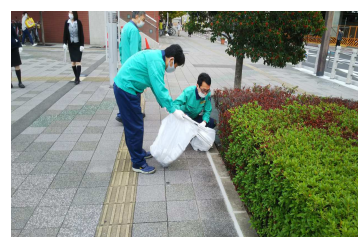
地球環境を大切にした活動

「事業活動を通じて、環境保護に貢献する」を環境方針に掲げ、設計段階から環境配慮した商品や、生産活動における電力削減、徹底したゴミ分別による排出されるゴミの削減（リサイクル率向上）などを重要項目として取り組んでいます。特にゴミの分別に関しては、分別しやすくするための改善を推し進めています。



◆駅前清掃の継続

コロナ禍の影響で回数は減りましたが、今年も駅前までの道のりで清掃を行いました。ゴミも拾い出すと無心で集める社員の姿が見られ、心もきれいになったようでした。また、地域に育てられたご恩も忘れずにいたいものです。



◆近隣清掃活動の開始

全社員参加型の工場近隣清掃を開始しました。毎週末の金曜日の午後に役員も含めての清掃活動も7月からスタートし、社内活動として定着してきました。近隣の皆様と共に美化活動を推進しています。



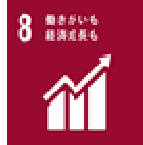
◆継続した環境活動を目指して

製品や部品の梱包材として使用していた古新聞の入手が困難になり、修理部門、出荷部門からの悲鳴が聞こえてきました。環境委員メンバーからの問題提起により、リサイクルに回していた古紙をリユースできないか議論し、シュレーダー用紙を小分けし梱包材として必要数を対応することができるようになりました。



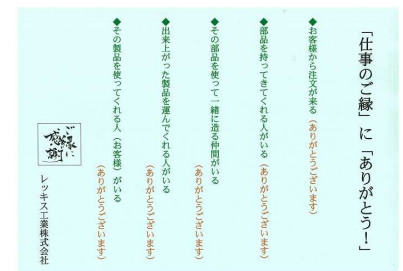
働きがいのある職場づくり

社は「三利の向上」より社員満足に繋がる「働きがいのある職場づくり」を進めています。社員が健康で、活力ある職場を目指し、「ありがとう経営」など様々な取り組みを続けています。



◆ありがとう経営の実践

ほめ合う文化をつくろう！の合言葉で始めた社内ネットワークの掲示板「ほめ合える掲示板」には多くの「ありがとう！」の書き込みがあります。掲示板を立ち上げてから早10年が経過し、今ではレックス文化としてすっかり定着しました。もちろん掲示板以外のところでもありがとうの言葉が職場内・職場間で飛び交っています。



◆効率よく仕事をするための工夫・改善

仕事を楽に！を目指し様々な場面、工程、場所で改善が行われています。今年の優秀提案賞はトットリエ場から出ましたが、チームワークを感じる内容で、コストダウンに取り組んでいました。努力賞についても5件が選出されレベルUPを感じています。



◆健康経営優良法人の認定を受けました。

2017年度より本格的な健康経営の取り組みを始め、昨年は健康経営優良法人の中でも優れたブライト500の称号を得ることができました。今年はブライトの認定は受けられませんが、健康経営優良法人の認定は継続して受けております。

次年度はブライト500の認定復活を目標に、職場環境の向上に向けた新たな取り組みや、また産業医等の専門スタッフと連携しアドバイスをもらながら社員が安全で安心して働ける環境整備と働きがいのある職場づくりに努めてまいります。





大正14年8月1日、創業者・宮川作次郎がレッキス工業の前身である宮川工具研究所を創立し、お客様に喜んでいただける配管機械工具の開発に日々努力・研鑽して参りました。

社は「三利の向上」にもあるように、我々は、お客様と社員と社会、すべての人が良い状態でなければ、会社の繁栄はあり得ないと考えています。

三利の“利”とは、商売の利や儲けのことだけをいっているのではなく、広い意味での「利」つまり「ためになること」を意味します。

企業として「お客様の心を捉えるものを造れなければ意味がない」「良い物を造っても売れなければ何もならない」が、創業者の経営哲学であり、お客様の心を捉えるために、どのような努力も惜しまず、全力投球でチャレンジすることが当社の根本精神です。

NOTE

REX

あ り が と う

明るく元氣な職場をめざし

理想と理念を高く持ち

(か) 感じたことを言葉にして

共にほめ合い、助け合い

嬉しい気持ちを分かち合おう！

二〇一五年 一月二二日 今作

感謝

この「ありがとう」語録は、私たちが目指す理想の姿「社員一人ひとりが元気で、働きがいのある会社」を実現するための「合言葉」になればいいなと、皆様の知恵を集めて作ったものです。

まさしく感謝とは「感じたことを言葉にして届けること」です。言葉でお互いの心と心がつながり合えば、きっと明るく楽しい職場や会社になることでしょう。

上司は部下の行動を感謝の気持ちでほめ、仕事は助け合いと、会社にいると気持ちが湧き上がってくるような、そんな働きがいのある会社にしましょう！

レッキス工業株式会社